

平成29年度 中学校生徒海外交流教育事業について

例年、千代田区と英国・ロンドンのウェストミンスター市は、相互に生徒の受入及び派遣を実施しているところであるが、本年3月22日で現地においてテロ事件が発生し、現地の治安状況は不透明である。

外務省のホームページによる、事件の概要と英国当局の対応は次のとおりである。

3月22日14時50分頃(現地時間)、ロンドン市内ウェストミンスター橋の歩道を車両が暴走して多数の通行人を轢き、その後ナイフを持った男が英議会下院への侵入を試み警官1名を刺殺する事件が発生した。この事件により、少なくとも犯人を含む5名が死亡、40名が負傷した。なお、犯人1名は現場で警察官に射殺された。

英国当局は、本事件は犯人が国際テロリズムに触発されたという想定で捜査を進め、また、テロの脅威度「深刻(severe)」(5段階中2番目に高い)を継続するとした。また、事件後、数日間、ロンドン市内では武装・非武装の警察官を多く配置するとしている。

このことに伴い、外務省は次のとおり、現在、ロンドンをはじめとして英国に渡航・滞在する場合は、テロ事件等不測の事態に巻き込まれることのないように、次の対応を求めている。

(1) 最新の関連情報を入手すること。

(2) テロの標的となりやすい場所(※)を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な人物や状況を察知したら速やかにその場を離れる等、安全確保に十分注意を払うこと。

(※) 観光施設、レストラン、ホテル、ショッピングモール、スーパーマーケット等人が多く集まる施設、教会等宗教関係施設、公共交通機関、政府関連施設(特に軍、警察、治安関係施設)等

こうした状況を踏まえ、また、犠牲者にフランスからの修学旅行中の生徒も含まれていることを鑑みると、平成29年度の当該事業の実施した場合は問題としては次のことが考えられる。なお、生徒の募集時期も加味すると、実施の可否等について早い時期に判断することが求められる。

1 犯行に関わったとされる人物は複数名逮捕されたものの、過激派組織「イスラム国」(IS)が声明を出しており、ISはこれまで、同じ地域で犯行を繰り返す傾向があり、相当期間、英国が安全な地域とは言えないこと。

2 事件の現場が、まさに派遣する地域の学校付近であり、現状では、安全が確保されておらず、派遣された場合でもさまざまな危険や制約が考えられること。

3 派遣時期は、11月下旬ではあるが、当該事業の募集事務については、保護者説明会等 4月から開始する必要がある、現状、安全が確保できない地域についての募集は適当ではないこと。また、派遣に対して、保護者の不安を払拭することは、現状難しいこと。